

# マスターデータとは？

## 企業の大切な資産として データを管理する



## マスターデータとは何か？

マスターデータは事業を推進する上で重要な情報の単一の情報源です。言い換えると、マスターデータは主要な事業プロセスやトランザクションをサポートするものです。



## MDMとは何か？

MDMとはマスターデータ管理を意味し、ハードウェアとソフトウェアを対象とする管理規則であるだけでなく、データを重要な資産として捉えるマインドセットを構築するものです。



マスターデータ管理の目的は、正確かつ最新、完全で関連性のあるマスターデータの情報源を構築し、事業プロセスや取引をサポートすることです。

## データ管理に関する一般的な課題



企業規模問わず多くの組織が、データ管理に関する問題(品質、スピード、可用性など)を抱えています。



一般的にデータはサイロ化した複数の場所に複製されており、その情報の管理や維持を行うデータガバナンスプロセスがほとんど、あるいは全くない状態です。

### データ管理に関する一般的な課題の例

01



重要な情報を個別に保管しているサイロが組織全体に点在している。

02



組織内にマスターデータの情報源に関する合意がない。

03



データ品質の問題が事業プロセスや取引の失敗につながる。

04



不正確なデータやデータの欠落により、コンプライアンスや業績管理の問題が生じる。

05



意思決定者が不完全なデータに基づいて不適切な決定を行う。

06



顧客が商品に関する質の高い情報を得られないことで、売上機会を損失する。

## MDMがもたらす価値

マスターデータ管理はマスターデータの単一の全体像を作成することで、効果的な意思決定や事業プロセスを支援し、データ関連の課題に対処します。



意思決定者



単一の全体像



データソース

### マスターデータ管理のメリット

01



正確でタイムリーな情報が商品の素早い市場投入を実現し、ビジネス上の意思決定を行う際の自信につながります。

02



組織と業務のデータを連携させることで業務効率を向上させます。

03



顧客体験とビジネス・インサイトを向上させ、事業成果を促進します。

04



企業と販売チャネルの全体で、一貫した信頼性の高い情報を提供することで、売上を向上させます。